

「 1 」 《放送による聞き取り問題》

これから放送による聞き取りの試験を行います。解答用紙を用意し、これから読む文章を聞いた上で質問に答えなさい。文章を聞いているとき、左のわく内にメモをとってもかまいませんが、解答はすべて解答用紙に記入しなさい。質問は全部で五つあります。文章は二回、質問は一回読みます。

人毛

與 龍 國 語

2 次の指示にしたがって答えなさい。

A 次の——線部を漢字に直しなさい。

- ① 争いがオサまる。
- ② 地しんでフジヨウ者が多数でる。
- ③ 罪人をサバく。
- ④ 君ならゼツタイだいじょうぶだ。
- ⑤ 油絵のテンランカイ。

B 次の――線部の漢字の読み方を答えなさい。

- ① 馬が暴れる。
- ② 八百屋でキャベツを買う。
- ③ 群れを率いる。
- ④ 臨時ニュース。
- ⑤ 興奮して話す。

〔 3 〕 次の各問いに答えなさい。

問1 次の各組の□に共通して入る、体の部分を表す漢字一字を答えなさい。

- ①
- | | | |
|-----|-----|------|
| □ | □ | □ |
| がきく | で笑う | を明かす |

- ②
- | | | |
|---|---|----|
| □ | □ | □ |
| に | を | が |
| き | く | 立 |
| ぬ | い | た |
| 着 | し | ない |
| せ | ば | |
| ぬ | る | |

問2 次の――線部を主語にして、意味を変えないように文を書きかえな

さい。
妹のひとことに、周りのみんなはほへんだ。

問3 次の各文の□に当てはまるひらがなを書きなさい。

- ① 昨日に続いて、今日□うまういった。
② 昨日□□今日のほうが寒い。

「4」 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

水に浮く物体と沈む物体との区別を、子どもに発見させる問題を与えてみる。おとなにとつて自明の理であるかのようにみえるこの種の問題も、幼児にとつてはかなりむずかしい。幼児はおとなのような論理的分類の思考力をもっていないため、水遊びでこの現象を経験したとしても、①そういう思考力によつてこれを解釈することができないのである。

ある子は、小さな積み木が水に沈むと予想した。ところが、実際に水の中に入れてみると浮いた。次に、やや大きい積み木について予想させてみる。すると幼児は、さきほどの積み木は小さいから浮いたけれども、こんどの積み木は大きいから沈むと予想した。実際に調べてみると、やはり浮く。小学生なら、ここらあたりで、Xという分類の観点を変えて、X以外の性質に着目するだろう。ところが幼児にはそれができない。《A》、もつと大きい積み木について予想させると、「ずっと大きいから、こんどこそ沈むよ」といって、相変わらずXに固執しつづける。(ア)

このとき、おとなは、一積み木は木でできているから、みな浮くのよ」と教えてしまいたくなるものである。事実、②そういう指導の方がはるかに安易だし、おとなはこの知識を幼児が理解したものとばかり思いこんでいる。ところが、③実際には何もわかっていないのがふつうである。

もちろん、幼児がおとなの教えたことがらをまったく受け入れないわけではない。比重^{注4}についての知識は、ふつう十一歳頃^{さいころ}にしか持つことのできないものだが、これを六歳児にも教えることはできる。ところが、この正しい知識の押^おしつけによる学習は、実に不安定だった。しばらくすると、少しでも材料が変わるともとの状態にもどつてしまう。(イ)

このように、子どもの学習を、おとなの論理に表面的に一致いっちさせることができたとしても、それによって得られた知識はきわめてもろく、すぐに忘れられる。子どもの思考力は、その発達段階を一步一步着実にたどることによって伸びていくのであって、その発達の歩みをスピードアップして、短期間で通り過ぎていくことは不可能である。(ウ)

≧ B ≧、幼児に対して直ちにおとなのような論理的思考を期待すること
 とができないにしても、こういう知識には幼児はまだ手がとどかないとみな
 して、④その問題を避けて通つてはならない。さきほどのべたように、幼児
 は、たとえおとなのような論理でものごとを考えることができなくても、ま
 ったくでたらめに考えているのではなく、幼児なりにその問題に取り組んで
 いる。そして、その解答は、幼児なりの思考の表現である以上、常に何らか
 の Y を含んでいるものである。(エ)

ある子どもは、大きな積み木が浮くのに、小さな虫ピンが沈むのを知って、浮き沈みを物体の大きさで判断することができないことに気づいた結果、「やわらかいものは浮いて、固いものは沈む」というふうに、考えを訂正した。この思考も、完全にまちがっているとはいいきれない。ただ正確さが不十分であるにすぎない。子どもは、経験を重ねるうちに、これではうまく説明できないような現象にぶつからざるをえない。そしてこのような機会を通して、その思考の不十分さに気づき、自分でこれを訂正していくようになる。

だから、正しい知識をその場で教えてやるよりも、その現象についての疑問や知識欲をかきたてて、実際に調べさせる方が、子どもの思考力の発達にとってはおおにのぞましい。

(滝沢武久『子どもの思考力』より)

語注

- 1 自明の理……はつきりとわかっている道理。
- 2 固執……自分の意見をかくく主張してまげないこと。「こじゅう」とも読む。
- 3 安易……たやすいこと。
- 4 比重……ある物質の重さを、同じ体積のセ氏四度の水の重さと比べ、その何倍になるかを表したものの。

問1 空らん《A》、《B》にあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　そして
イ　しかし
ウ　たとえば

エ　また
オ　だから

問2 ―― 線部①「そういう思考力」とはどのような思考力ですか。本文中から十五字以上二十字以内でぬき出して答えなさい。

問3 空らん X にあてはまる言葉を本文中から三字でぬき出して答えなさい。

問4 線部②「そういう指導」とはどのように指導をすることですか。本文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

問5 ——線部③「実際には何もわかっていない」とありますが、それはなぜですか。その理由を表す一文を本文中から探し、最初の五字で答えなさい。

問6 線部④「その問題を避けて通つてはならない」とありますが、筆者は子どもの思考力を伸ばすためにどのようなことをするのがよいと言っていますか。本文中の言葉を用いて、二十五字以内で答えなさい。(句読点も一字に数えます)

問7 空らん Y にあてはまる言葉として最も適当なものを次の中から選
び、記号で答えなさい。
ア まちがい イ ヒント ウ 正しさ エ 発見

問8 本文には次の文章がぬけています。(ア) (エ)のどこに入れるのが適当ですか。記号で答えなさい。

たとえば、ローソクについて予想させると、以前と同様、「大きいから沈む」とか「ちつぽけだから浮く」とかとのべ、せつかく教えたはずの比重の概念を適用しようとはしないのである。

注 概念……物事に対する考え方

問9 本文の内容として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 幼児はおとなの教えた論理的知識をまったく受け入れることができない。
イ 幼児の思考力は着実に伸びていく場合と、短期間で伸びていく場合がある。
ウ 幼児は幼児なりによく考え、経験を重ねるなかで、思考力を身につけていく。
エ 幼児の思考力を伸ばしていくためには、おとなは手助けをしてはいけない。

問10 この文章は、子どもの学習について述べられた文章ですが、あなたが学習するとき心がけていることはどのようなことですか。理由もふくめて五十字以上八十字以内で書きなさい。(句読点も一字に数えます)

「5」次の文章は有川浩が書いた『阪急電車』の一節です。主人公の翔子は結婚式を目前にして、恋人が他の人と結婚することになり、別れてしまいます。そこで翔子は、復しゅうのためにその男の結婚式に出席します。その結婚式の帰り道、翔子は電車の中で泣いてしまい、老婦人にすすめられて電車を降ります。これに続く次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

改札を出て、アスファルト舗装の道路を下りはじめると、すぐ左脇に逸れるレンガ道があった。自転車がたくさん停まっているその様子で分かる、入って奥に小さなスーパーストアがあった。更に奥にはドラッグストア。スーパーストアの軒先に妙なものを見つけた。庇の骨に白いビニール傘の把手を引かけて、①傘が逆さに吊つてあるのである。

何だろう、あれは？

怪訝に思つて正体を確かめに歩み寄り、手を打った。

傘を引つけた庇の骨の上にやはりツバメの巣があり、逆さになった傘はその糞受けになつていたのである。

これはアイデアだ、と唸った。自転車の整理をしていた警備員のおじさんに思わず声をかける。

「これ、よく考えましたね」

おそらく定年退職後のパート勤めであろうその警備員は、翔子を振り返つて怪訝にAを傾げた。何を話しかけられたのか聞こえなかったらしい。

「これ、いいアイデアですね」

声を心持ち大きくしながら逆さ吊りの傘を指差す。するとようやく分かつたようだ。

「ああ、ねえ、これ。ツバメの巣、取っちゃうわけにはいかないでしょ。はるばる渡ってきたんだし、縁起のいい鳥だしね。でもここに巣、作られると困っちゃうんだなあ。ほら、お客さんにちようど糞がかかるところでしょ。そこで皆で考えてねえ」

いい駅だから。

乗り合わせた老婦人の言葉がやつと分かつてきた。

②いい駅かついい町でもありそうだ(街という言葉が使えらるほど大きな街ではない)。ツバメと客と双方の顔を立てて庇に傘を吊つたこの店で、何か買ってあげたくなった。そういうえば披露宴でほとんど食べなかったので小腹が空いている。表にベンチもあったし、何か総菜とお茶でも買って食べるくらいは許されるだろう。

翔子は警備員に会釈して店に入った。入つてすぐのところは野菜のお買い得品が並んでいて買いたくなったが、自宅まで持つて帰るのは重いので諦めた。

あつという間にぐると一周できる小さな店だが、小さいなりに品揃えはなかなかだ。小規模ながらもスーパーとしての機能は果たせるラインナップで、しかも閉店時間が夜中らしい。独り者にはことに便利な店だ。コンビニ飯は続くと思う。③こんな店が近所にあつたら共働きをしても家事が楽そう——などと考え、当面そんな機会は失われたことを思い出してまた④胸が鋭く痛んだ。

レジの手前に総菜コーナーがあつて、そこに弁当などと一緒に籠に盛られたおにぎりがあつた。しかもコンビニ風にパッケージされたものではなく、漬け物の混ぜご飯が手結びされてラップで包まれたものだ。そのアットホームさに惹かれて梅しそを一つ手に取り、飲み物のコーナーで持つてきておいたお茶と一緒に買う。

梅雨の晴れ間の一日でベンチはいい感じに温まつていた。電車の中で⑤頑なに立っていたことが嘘のように、⑥ドレスの皺など気にもかけずに座つた。お母さんが握つたような素朴な見かけ、素朴な味のおにぎりは、**B**体のことを気にかけてられているようだった。ゆっくりとよく噛んで、お茶で流し込む。すると一つで十分にお腹がいっぱいになった。

ゴミ箱に食べ終わったゴミを捨てて、翔子は先程の警備員に声をかけた。

「あの、すみません」

「はいはい」

傘のアイデアを勧められたのが嬉しかったのか、警備員は愛想よく応じた。

「この辺で、服を穿ける店がありますか？」

このスーパーには服飾コーナーはなかったから訊いても失礼ではあるまい。警備員は困つたように**A**を傾げた。女性の洋品店などあまりわからないのだろう。やがて、坂道に出て正面に見下ろせる大きなスーパーを指差した。

「あつちだったら婦人服のコーナーもあると思うけどねえ」

このこぢんまりしたスーパーに比べて、ここから見えるほど巨大な建物だから迷いようはない。

ありがとうございますと礼を述べて、翔子は坂を下りはじめた。

【語注】

- 1 庇……のき先に差し出した、小さな屋根。
- 2 怪訝に……不思議に。
- 3 総菜……毎日のおかず。副食。
- 4 ラインナップ……ここでは、品ぞろえのこと。

問1 線部①「傘が逆さに吊つてあるのである」とありますが、これは何のためにあるのですか。本文中の言葉を使って、**十五字以内**で答えなさい。

問2 空らん**A**には体の一部を表す漢字が入ります。最も適当なものを考え、その漢字を答えなさい。

問3 線部②「いい駅かついい町でもありそうだ」とありますが、翔子がこのように考えたのはなぜですか。その理由を**三十五字以内**で説明しなさい。

問4 線部③「こんな店が近所にあつたら共働きをしても家事が楽そう」とありますが、翔子はどのようなことからこのように考えたのですか。「うこと」という形で二つ、それぞれ**十五字以内**で答えなさい。

問5 線部④「胸が鋭く痛んだ」とありますが、翔子はなぜこのような気持ちになったのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の家から遠いスーパーなので、わざわざ立ち寄る機会もなかったから。
イ 楽しい想像をしたが、独り者の自分にはそんな幸せは訪れてこないと感じたから。
ウ 自分の結婚がなくなり、仕事と家事を両立しなければならぬ機会がなくなつたから。
エ コンビニ飯のおいしさを思い出し、共働きをしてまで家事をする機会はいらないと考えたから。

問6 線部⑤「頑なに立っていた」とはどのようなように立っていることですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 電車にゆられぬように立っていた
イ じつと外をながめて立っていた
ウ 考えを強く持つて立っていた
エ つまらなさそうな様子で立っていた

問7

——線部⑥「ドレスの皺など気にもかけずに座った」とありますが、このときの翔子の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 温かい雰囲気かんいきの町に立ち寄ったことで、不快に感じていた気分が和らぎ、小さな事にこだわらなくなった気持ち。

イ 周囲の人々に親切にされたことで、自分のおこないを振り返ることができ、すっきりとした気持ち。

ウ 梅雨の晴れ間のベンチに座ったことで、おにぎりをおいしく食べることができる、期待する気持ち。

エ 梅しそのおにぎりを買ったことで、改めてお腹が空いていたことに気づき、早く食べたいという気持ち。

問8

空らん B に入れるのに最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア まるで イ きつと ウ もちろん エ 結局